

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

# 短期大学生を対象としたパラグラフ・ライティングの指導実践とその効果

著者	仲川 浩世
雑誌名	研究論集
巻	104
ページ	117-127
発行年	2016-09
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1443/00007706/">http://id.nii.ac.jp/1443/00007706/</a>

# 短期大学生を対象としたパラグラフ・ライティングの 指導実践とその効果\*

仲 川 浩 世

## 要 旨

本研究の目的は、本学短期大学部四技能統合型の必修クラスにおいて実施したパラグラフ・ライティング指導の効果について報告することである。1年生を対象に日本人教員とネイティブ教員が同じクラスを担当し、共通の題材を用いて、総合的な英語力の底上げを試みている。本学の学生は、留学希望者も多く、オーラル・コミュニケーションを中心とした授業内活動に関しては、学習意欲も高い傾向にある。しかし、ライティング学習に対しては、苦手意識を持つ者も少なくはない。本実践では、社会問題を扱ったリーディング教材の内容把握を実施し、語彙、構文を習得後、自分の考えをパラグラフ内に英語で述べるよう指導した。さらに、対象学生にはパラグラフ・ライティングの学習経験が不足しているため、明示的に書き方についても指導した。本稿では、具体的な実践概要と指導前後のライティングの伸び、さらに自由記述アンケートの結果にも関しても考察する。

キーワード：パラグラフ・ライティング、短期大学生、結束性

## 1. はじめに

本稿の目的は、筆者が実施した本学短期大学生を対象とするパラグラフ・ライティング指導<sup>1)</sup>についてその概要と結果を報告し、今後の教授法と研究の方針を探ることである。まず先行研究よりパラグラフ・ライティング指導の必要性に関して触れる。そして、具体的な実践手順を述べる。次に指導前後の学習者のパラグラフから、指導の効果について言及する。最後に指導法に対する自由記述アンケート結果を提示し、研究課題として今後考慮しなければならない点について考察する。

## 2. 先行研究

小・中・高・大における英語教育現場の指導法は、「コミュニケーション能力の促進」「オーラル・コミュニケーション能力の促進」が主流となりつつある。その弊害として、日本人学習者の著

しい英語力低下（酒井，2008）が見られるようになった。特に四技能の中でも中・高校6年間において指導が不足傾向にあり、より高度な英語力が必要である「書くこと」は学習者だけではなく、教員にとっても最も大きな負担となっている（馬場，2013）。

1990年代以前はコミュニケーション・アプローチがまだ現在ほど導入されておらず、短文の英作文や和文英訳が中心であった（Nakanishi, 2006）。それゆえまとまった長さを書かせる英文指導は十分行われているとは言えなかったが、学習者は難易度の高い語彙や表現を用いて、英作文力を強化することが可能となっていた。

それに対し現在では、1990年代以降のコミュニケーション・アプローチの導入により、「書く基礎的な能力」「語彙知識の不足」「文構造の認識不足」という問題点が見受けられる。そのため現場の教員、研究者が協力して初・中級レベルの日本人大学生・短期大学生に特化したライティング指導の研究が必要であると考えられる（鴨下，2010; Matsuda, 2010）。

従って、学習者が自分の意見を英語で書くことに慣れる必要があると言うまでもないが、ライティングの基礎であるパラグラフについて学習する必要があるとも言えよう。

O'Donnell & Paiva (1993:2) はパラグラフについて、“Most writing is made up of smaller units called *paragraphs*...”と述べている。橋内は「一パラグラフこそ、英語の文章構成における明確な単位なのである」（橋内，1995:10）と指摘し、ライティングに不慣れな学習者はパラグラフ・ライティングにおける結束性（cohesion）を把握することが大切であると主張している。橋内はパラグラフの結束性について「語と語、文と文、文段と文段が巧みに結び付いてテキストを作り上げること」（橋内，1995:15）と定義している。

さらにパラグラフ内における結束性を理解させるためにはつなぎ語（connectors）を学習者に明示的に指導する必要があると考えられる。大井（2008）は書き手の主張を述べるためにパラグラフ内において明確な論理的展開が必要であると言及している。

中谷（2012）は、アカデミック・ライティング指導におけるディスコース・ストラテジーの重要性を説き、母語話者ではない日本人学生にとって、パラグラフ内の文を効果的に結びつけ、ロジック（論理的さ）を完全に習得させることは容易ではないと指摘した。さらに、英語のロジックの習得のためにディスコースの一貫性（coherence）と結束性の習得を主張した。

これらの先行研究から、内容のあるまとまった考えを英文で書くためには、パラグラフ構成の基礎の把握が必須であり、そこから学習者の論理的思考が発達すると考えられる。

そのため、本研究におけるパラグラフ・ライティング指導の目的は、学習者のライティングにおける1. 流暢さ（fluency）の増加、2. パラグラフ構成の理解、3. 結束性のあるパラグラフへの改善の手助けとする。そして、最終的に、結束性のあるパラグラフが論理的な思考の助長となるようなパラグラフ・ライティング指導を目指す。

### 3. 実践

本研究で対象にしたのは、TOEIC460点程度の英語専攻の短期大学生17人である。2014年9月から12月まで、日本人教員（筆者）とネイティブ教員が対象学生の四技能統合型の必修英語、90分授業をそれぞれ週2回ずつ担当した。

授業内では、日本人教員、ネイティブ教員どちらも同じ教材を扱うことが課せられていた。例を挙げると、社会問題を扱った英字新聞記事である。日本人教員はリーディング、リスニング（インプット）、ネイティブ教員はスピーキング、ライティング（アウトプット）という役割を担っていた。

日本人教員のクラスでは与えられた題材（英文）の内容を日本語で把握させ、それに対してネイティブ教員のクラスでは、そのテーマについて自分の意見を英語で発信させるというタスクを行った。

また、両クラスでは、ワークシートが与えられ、学生の論理的思考の確立、問題意識の発展をさせるという課題が実施された。すなわち、ワークシート内に題材のテーマに対する命題（質問）が与えられ、学生は英語で意見を述べるということが要求されたのである。

しかし教材は英字新聞の抜粋でもあり、対象学生のリーディング力をはるかに上回っていたため、筆者は次の2点を中心にして授業を展開した。

- (1) 題材の内容把握（英文和訳、語彙、文法、構文の指導）
- (2) 英文パラグラフ・ライティングの構造に対する明示的な指導

その理由は明示的なパラグラフ・ライティングにも重点を置くことによって、インプットを得た学習者がネイティブ教員のアウトプット授業に段階を経て取り組めるようにさせたいという筆者の意図によるものである。

以下が、具体的な指導概要である。

〈題材の内容把握：長文読解〉

- 1) 題材：英字新聞などから抽出された時事問題を扱ったテーマ。（環境問題、医療問題、捕鯨問題など）
- 2) リーディングからライティングへと：英文記事を読み、大意を把握させる。その過程において、ライティングの際に用いることができる単語・熟語・構文に着目させる。
- 3) 英文を読んだ後、まず日本語で自分の意見をまとめる。時間がある際にはクラス内で話し合わせる。

〈パラグラフ・ライティング指導〉

- 1) テーマ及びワークシートの命題に対して、アウトラインの作成を促し、自分の意見を整理させた。
- 2) パラグラフの基本構造に関して、プロジェクターを用いて説明した。
  - ①トピック・センテンス（主題文）、サポーティング・センテンス（支持文）、コンクルーディング・センテンス（結論文）というパラグラフの基本的な要素と形式について指導した。
  - ②最低3つのサポーティング・センテンス（具体例、命題を理由づけする理由）を1つのパラグラフ内に含むように示した。
  - ③指導時につなぎ言葉である接続詞、接続副詞（First, Second, Third, In conclusion, Since, Although, According to, For these reasons など）の例を提示した。そして、パラグラフ内では、これらのつなぎ言葉によってサポーティング・センテンスを展開させるよう助言した。すなわち、学習者自身によって、つなぎ言葉の使用が論理的な文章構成に発展していくことに気づかせるようにした。
  - ④パラグラフを書く際に考慮すべき事項（インデンテーション、大文字、小文字の区別、口語表現や主観的な文章はなるべく控えるようにすること）も例をあげて明示的に指導した。
  - ⑤①～④の点を考慮することによりできる限り首尾一貫した内容のパラグラフを書くよう指導した。
- 3) 2)の授業内で指導したパラグラフ構造を参考にして、課題にし、翌週提出させた。
- 4) 翌週の授業で、提出済みの英文をプロジェクターに映し出して全員で検討した。特に前回の授業で指導したパラグラフの要素が含まれているかどうか、論理的な展開の内容であるかということを意識して、全員またはグループで話し合わせた。評価の際には、指導前後の総語数、全文数の伸び、そして文章の客観性などについても検討した。

同様の題材を用いて、ネイティブ教員が週2回各90分単位でより綿密で高度なライティング指導を行った。ネイティブ教員の授業では、パラグラフ・ライティングの基礎だけではなく、アウトラインの作成、下書き、校正、推敲という書く過程を重視したプロセス・ライティング（橋内、1995）が行われていた。Raimes（1992）はプロセス・ライティングの前にグループでブレインストーミング（brainstorming）をすることによって、様々な意見を共有し、必要なものを取捨選択できると述べている。次に述べるのが具体的な指導概要である。

〈ネイティブ教員の役割〉

- 1) マッピングなどを用いて、ブレインストーミングを実施する。何度か提出させ、教員側から誤り訂正、さらに意見を発達させるよう指導した。
- 2) プロセス・ライティングによって、下書き、校正を繰り返し、最終的には推敲を終えた課題を提出させる。

短期大学部のこのような必修クラスでは、日本人教員と外国人教員が同じ学生を担当し、協力して幅広い知識（環境問題・医療・科学技術など）と英語の四技能の向上という到達目標が掲げられている。そのため、必要と判断した場合、ネイティブ教員と進捗状況について確認し合った。その際に、学生のライティングに関する意欲、学習上の問題点についても意見交換をした。

#### 4. 結果と考察

授業欠席者を除いた参加者17人の指導前後の命題のうち、2人の学習者のパラグラフのサンプルを提示する<sup>2)</sup>。サンプル内の指導後のパラグラフにおいては、総語数、全文数共に伸びていることが見受けられる。文法や語彙の使用における誤りなど問題点もあるが、流暢さの増加、パラグラフ構成の把握、さらに表現力の発達が明らかに見られよう。

さらにつなぎ言葉などを用いて、“I want to...”ではなく、“It is a good idea...”という主観的なパラグラフから、客観的なパラグラフへと論理性のある文章に改善されていることもわかる。これは指導の際に、人称代名詞 I から we へと書き方を変えるよう促し、さらには It is necessary for us ~, It is important for them ~ などの構文を意識して用いるように指導した効果であると考えられよう。

大井（2002）によれば、「読み手」を意識することが、学習者のライティングを主観的なものから客観的なものへと変える手助けとなると述べている。そのためにも明示的にパラグラフの客観性を意識させることが、ライティングの負担と苦手意識の軽減につながると想定できる。

（指導前：命題）

Q. What invention do you think is the most useful in your daily life? Why do you think so?

サンプル 1

I want to make cleaning machine of toilet. Not normal cleaning machine. Cleaning machine of toilet clean dirt on the toilet bowl. Because I hate clean toilet at part-time job. To date I know usually cleaning machine but I want to invention clean toilet bowl

from top to bottom.

(49 words)

サンプル 2

I want to invent cooking robot whenever any help we could have gotten. For example, when I come back the home from school, robot prepares hot delicious dinner. also when three o'clock, it cooks homemade cookies and hot tea. then the people refresh the stress and feel comfortable. Next I want to invent robot which it can work instead human.

(60 words)

(指導後：命題)

Q. Some scientists do not think it is a good idea to announce an earthquake beforehand because it may not actually take place. Do you agree or disagree? Explain your answer.

サンプル 1

It is a good idea to announce. First, people can evacuate knowing that the earthquake occurs such as people blame the school and hide under the desk. Next, it protect the babies and the elderly safety. They are difficult to get away alone. It is not run away and not get others to assist you. Finally, it will also be the victim is reduced. It is more victim and come out with a mobile phone will decrease. Because most of the people have a mobile phone now. Therefore, it should be announce an earthquake beforehand.

(95 words)

サンプル 2

It is a good idea to announce an earthquake beforehand. They are some reasons for that. First of all, city people can have enough time in order to evacuate their homes. If large scale disaster happens without announce, they can not calm judgment to guard themselves from danger. It is important for them to have enough time. Next, it seems likely that disaster area can minimize injured persons. Disaster victim should confirm some evacuation routes, such as logical large park, shipping mole, and mountain. It is effective to carry out evacuation drill in school. Finally, people can important to inform disaster in advance to secure the safety of the residents.

(110 words)

以下の図は参加者17名全員の指導前後の総語数、全文数、つなぎ言葉数を表で表したものである。3つの図から、指導前の数値よりも指導後が全て上昇していることがわかる。

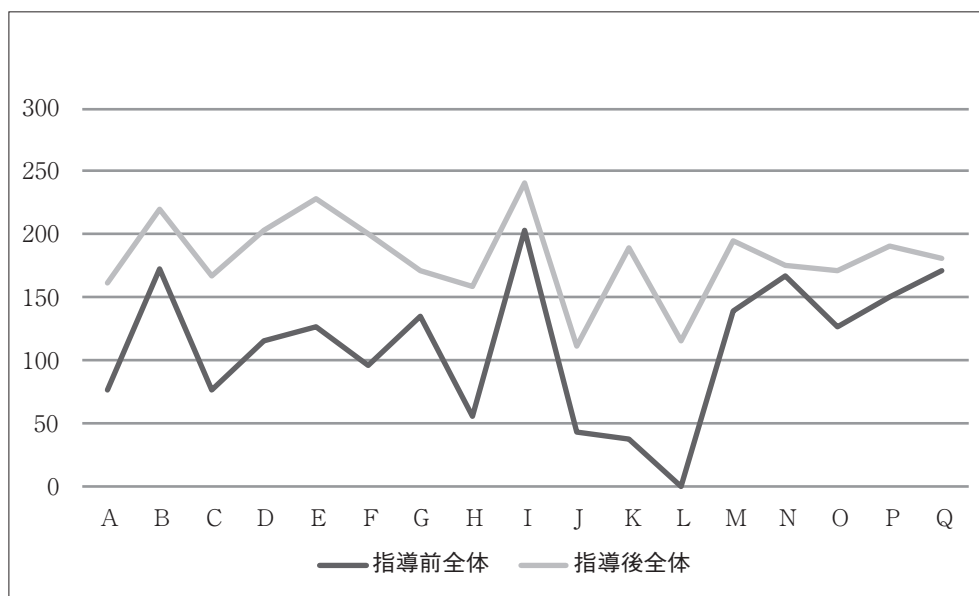


図1 総語数の比較（語）

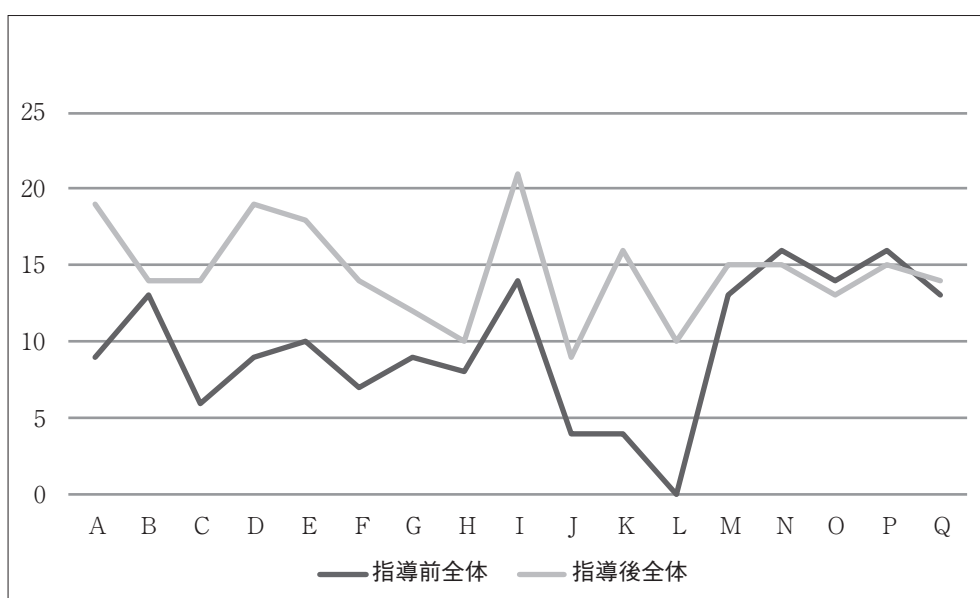


図2 全文数の比較（文）



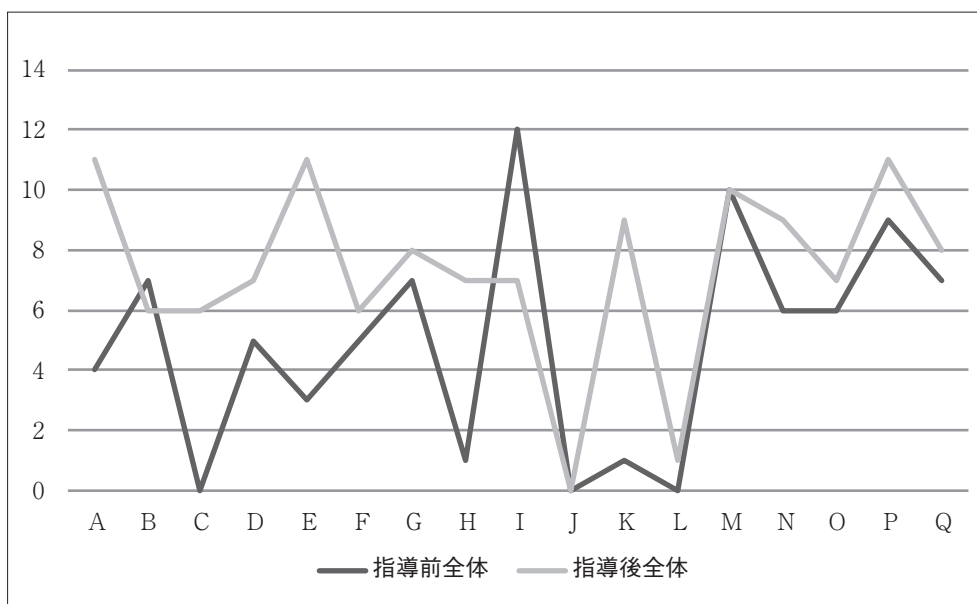


図3 つなぎ言葉の比較 (語句)

指導前後の全体的な伸びを比較してみると、ライティング力の低い学生の方が上昇傾向にあるということがわかる。例えば、学習者Cは指導前、総語数、全文数、つなぎ言葉数と全てにおいて値が低かったが、指導後は高い伸びを示している。

これに反して、学習者Iのつなぎ言葉の数値は、指導後下がってしまった。理由としては、普段からじっくりと言葉を選んで考えて書くという学習者であったために、つなぎ言葉の選択に必要以上に迷ってしまったためであろう。

さらに参加者全体に言えることだが、つなぎ言葉に関して、対象学生はまだパラグラフ構成そのものに慣れていないため、総語数、全文数に比べると伸びが低いということがわかる。さらに17名の学習者がライティングの際に使用したつなぎ言葉の種類を以下に提示しておく<sup>3)</sup>。

表1 指導前後のつなぎ言葉の種類

(指導前) as a result, because, besides, consequently, even if, finally, first of all, first, fourth, for example, however, in addition, in short, moreover, next, on the other hand, second, secondly, then, therefore, third, thirdly
(指導後) Actually, accordingly, after all, as a result, at first, because, consequently, finally, first of all, first, for example, for instance, however, in conclusion, in fact, in this way, next, second, thanks to, then, therefore, third, thirdly, the first reason, the final reason, firstly, the next reason, secondly

全体的に、指導後のパラグラフにおけるつなぎ言葉の種類の方が増えている。同じ意味を表

すにも、in fact や for instance といった異なる熟語を用いて、自分たちのライティングに対して工夫をしようとする姿勢が見受けられる。

さらに指導後のパラグラフでは、リーディング教材の語彙、表現、内容を出来る限りライティングに反映させ、産出していることがわかる。文法的な誤りも存在するが、つなぎ言葉の増加から、書き手の視点は「主観から客観」へと変わり、「結束性」のある論理的展開のあるパラグラフに改善されていると言えよう。

指導後、筆者は、パラグラフ・ライティング指導（ワークシート）に対する感想の自由記述アンケートを実施した。そして、その結果をテキストマイニングの共起ネットワーク（樋口，2014）にて分析した。前述の量的データとは異なり、最終授業にこのアンケートを実施したため、受講者21名全員の自由記述を入手し、そのデータ分析が可能となった。

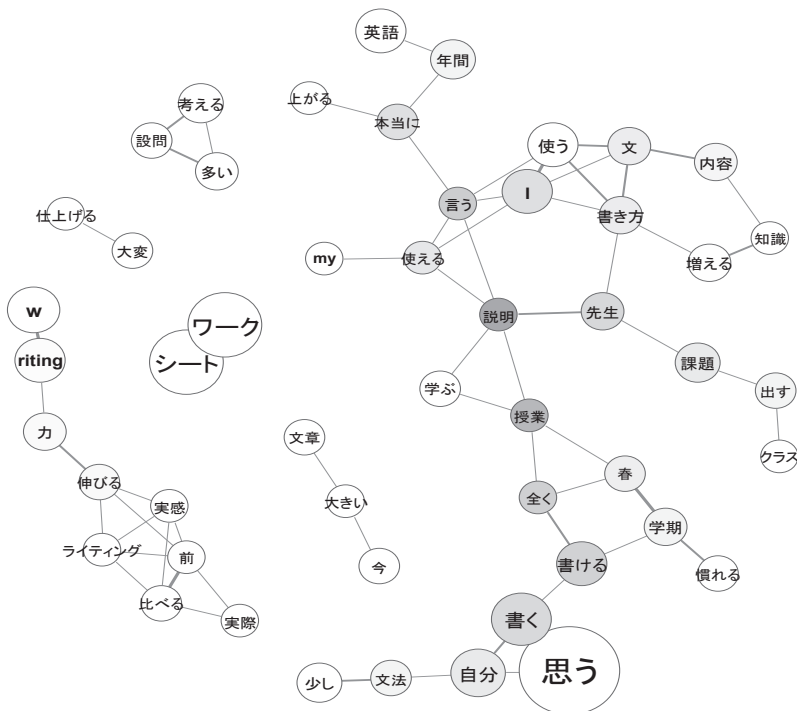


図4 ワークシートに関する共起ネットワーク

図4から、関連の強い語同士が線で結ばれ、また、出題回数の多い語ほど大きい円で描かれていることがわかる。

分析結果から、3つのことが言えよう。まず、「書く」ということに関して、「書く」「思う」「書ける」「学期」「慣れる」「自分」などの語が関連し合っている。このことから、学期を通じて参加者は書くことそのものに少しずつ慣れていったというがわかる。ライティング指導を中、

高であまり受けていない学習者にとって、まずは「書くこと」に対する抵抗、苦手意識を取り除くことが最優先である。このことに関しては、概ね効果的であったと考えられる。

【回答例】<sup>4)</sup>

- ・ とりあえず慣れたと思います。書く量も増えたと思います。英語の力が上がっていたらいいなと思います。
- ・ 最初は全然書けなくて内容もうすくて文も長く書けなかったけどいろいろアドバイスをもらってからだんだん書けるようになったのでよかった。

次に「書き方」「知識」「内容」「増える」などの結びつきが見られる。指導実践によって知識・内容の増強、書き方の理解が得られたといえよう。この実践だけでは確実に社会問題に対する意識が高まったとは言い難い。しかし、教材である時事問題に対して、自分の考えを英語で書くという練習は学習者の知識の増強の一助となったということが読み取れる。

【回答例】

- ・ 初めは writing というものを知らなかったのでとても戸惑いがありました。I ばかり使って、意見を示していたけど、本当の始め方を学びより良い文章を作ることができたと思います。文の書き方だけでなく、ワークシートの内容はいつも頭を使う内容ばかりだったので自分の中の社会等への考え方、知識が増えたと思いました。

最後に「ライティング」「比べる」「伸びる」「実感」「力」とあるように学習者の中には「自分のライティングの伸びを実感した者」もいるということがわかる。

【回答例】

- ・ 今回はもう多すぎるからあきらめようかなと何度も思ったけど、自分に負けないでちゃんと仕上げてやりとげることができてよかったです。すぐあきらめる性格なので少しはそんなところを改善されたと思います。やってる時は辛かったけど今振り返ってみるとやりとげることができてよかった。
- ・ 最初は高校の頃から writing の練習をしていたし、簡単だと思っていたけれど、何回も書いているうちに題もむずかしくなっていつかなり苦戦しました。自分で書いて学んだというよりも、先生が授業中に説明してくれたり書く上での条件をつけてくれたのがとても自分のためになったと思います。少しだけかもしれないけど writing の力が伸びた気がします。

上記のように指導後の自由記述から、主に「文の量の伸び」「書き方の把握」「知識の増強」などが報告されている。共起ネットワーク・感想例どちらも肯定的な意見が多いが、中には「仕上げる」「大変」という語も出題していることがわかる。このように回答した学生にとっては、難易度の高い課題に取り組むことそのものが厳しいようである。そのためにも、ライティングが苦手な学習者にとって積極的に楽しみながら取り組める指導法、教材案などを工夫していかなければならない。

【回答例】

- ・ 難しい内容の設問が多くて考えにくかった。もう少し考えやすい設問にしてほしかった。
- ・ 正直ワークシートは好きではなかった。

今回のパラグラフ・ライティング指導においては、「課題をやり終えたということに関する達成感」を感じ取った者がほとんどであったと考えられよう。一方で、比較的书くことに躊躇しない学習者にとっては、形式が決まっているパラグラフ・ライティングは、自分の考えを自由に表現することができなくなってしまうという恐れも見受けられた。このような課題から、ライティング上における流暢さ (fluency) と正確さ (accuracy) とのどちらを優先させるべきか考える必要がある。

また、本稿では、特につなぎ言葉の使用、文と文との結びつき、結束性について焦点を当てた。従って、指導前後のつなぎ言葉の使用の増加に着目したことから、論理的なパラグラフの展開に対する指導実践の手がかりの役割を果たしたと考えられる。

## 5. まとめ

筆者は本学短期大学生を対象としたパラグラフ・ライティング指導実践の効果について報告した。今回の実践は対象人数も少なく短期間では指導の効果を一般化できない。しかし、学習者は全般的に自分の意見を英語で構築させることを学び、さらにそれを書く訓練を繰り返すことによって、英語で意見を述べると言うことに対する意欲が向上したのではなかろうか。今後は、学習者のライティング学習に対する意識や問題点を探り、初・中級者のためのライティング力の育成に特化した研究を続けていく必要がある。具体的には、学習者の能力と意欲に適応した指導や誤り訂正、フィードバック、評価基準の検討なども視野に入れ、長期的に研究活動を進めていきたいと考えている。

## 注

- \* 本稿は、2015年8月23日に熊本学園大学にて開催された、第41回全国英語教育学会 熊本研究大会の発表内容を加筆修正したものです。
- 1) 2014年度の秋学期の短期大学部必修科目である、Integrated English C、Integrated English D に関する実践内容について考察した。
  - 2) サンプルのライティングは学習者の提出物であり、文法、語法など誤り訂正は行っていない。
  - 3) 指導前後のつながり言葉は、複数回使用されたものを含んでいる。
  - 4) 自由記述の回答例は、実際に学習者が記述した中からの抜粋である。

## 参考文献

- 大井恭子『「英語モード」でライティング』東京：講談社インターナショナル株式会社、2002年。
- 大井恭子編『パラグラフ・ライティング指導入門 ― 中高での効果的なライティング指導入門のために』東京：大修館書店、2008年。
- 鴨下恵子「ビギナーレベルの大学生に対するライティング指導の試み」『東京工芸大学工学部紀要』33号、2010年、55-61頁。
- 鬼田崇作「ピア・フィードバックを活用した英語パラグラフ・ライティングの指導 ― 受講生による授業評価アンケートの結果を中心に」『広島外国語教育研究紀要』18号、2015年、39-54頁。
- 酒井志延「英語教育における自律した学習者養成と ICT（特集 リメディアル教育と ICT）」『メディア教育研究』5号、2008年、45-56頁。
- 中谷安男「アカデミック・ライティングにおけるディスコース・ストラテジー」『法政大学多摩論集』28号、2012年、27-43頁。
- 橋内武『パラグラフ・ライティング入門』東京：研究社出版、1995年。
- 馬場千秋「ライティング指導で求められているもの」木村博是・木村友保・氏木道人（編）『リーディングとライティングの理論と実践』東京：大修館書店、2013年、119-134頁。
- 樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析』京都：ナカニシヤ出版、2014年。
- Matsuda, Paul Kei (2010), "English Writing in Japan: Toward Integration" *JACET Journal* 50, 15-20.
- Nakanishi, Chiharu (2006), *A Teaching Approach to Japanese College Students' EFL Writing*. Tokyo: Keio University Press.
- O'Donnell, Teresa D., & Paiva, Judith L. (1993), *Independent Writing*. Boston: Heinle & Heinle Pub.
- Raimes, Ann (1992), *Exploring through Writing*. New York: St. Martin's Press.

（なかがわ・ひろよ 短期大学部准教授）